福祉文教常任委員会所管事務調査報告書

令和7年4月21日

別海町議会議長 西原 浩 様

福祉文教常任委員長 外山 浩 司

福祉文教常任委員会における所管事務調査に係る福祉文教常任委員会協議会の協議結果について、次のとおり報告します。

記

1 開催日時

(1) 第1回常任委員会

令和7年4月21日（月）10時から14時30分まで

(2) 第1回常任委員会協議会

令和7年4月21日（月）14時40分から15時30分まで

2 開催場所

委員会室2・3

3 出席委員

外山委員長、横田副委員長、中村委員、田村委員、貞宗委員、伊勢委員、吉田委員

4 欠席委員

なし

5 委員外

西原議長

6 調査事件及び協議結果

(1) 第7次別海町総合計画について（福祉部）・・・調査継続

①高齢者バス・ハイヤー共通利用券交付事業について

所得制限などの申請条件があり、利用したくてもできないとの声を聞いており、地域によってはハイヤーを利用すると高額になり、数回で限度額の2万円に到達してしまう。

また、中標津町の交通会社2社が利用できるようになったが、遠方で料金も高くなり利用しづらい状況にある。

このことから、福祉面からだけでなく、町民の全体の交通手段の確保対策として、買い物や通院に利用しやすいワゴン車などの巡回車の運行を町内事業者に委

託するなど、検討してはどうか。

併せて、公共交通機関の利用が困難な交通空白地域対策として、住民が自家用車を使用して移動手段を持たない住民の交通を支える制度の導入ができないか調査研究を進めることはできないか。

(2) 第7次別海町総合計画について（保健生活部）・・・調査継続

①有害鳥獣対策事業について

現在、「囲いわな」で捕獲したシカは斜里町の業者に委託し処分等されている。

斜里町では、シカ肉をふるさと納税の返礼品にするなど、有効活用されているようだが、別海町では、個人が自分で捕獲したシカを加工して販売するに留まっていることから、地元でも有効活用する手段を検討していただきたい。

また、春駆除の報償金支払いが遅いとの声が一部の議員に届いているが、道費補助金の支払いとの兼ね合いもあることから、仕方がない部分もあると考えるが、確認の上、調整していただきたい。

(3) 第7次別海町総合計画について（教育委員会）・・・調査継続

①小中学校情報機器活用支援体制事業について

G I G Aスクール構想で児童生徒が使用している端末の使用期間が5年間程度しか使用できないことについては、今年度W i n d o w s 1 0のサポートが終了すること、A p p l e製品であればもっと長持ちするが、高額であることなどから仕方がないと考える。

町内は、光回線が通り環境的には整っているが、回線の利用は、各家庭での判断になるため、回線の利用ができない家庭には、教育委員会がW i - F i機器の貸し出しを行なっているなど、対応されている。

これらのことから、概ね適正に事業展開されていると考える。

②いじめ不登校問題対策支援事業について

支援スタッフに地域おこし協力隊員が関わっているとのことであるが、今後も適材適所を念頭に積極的に関わってってもらいたい。

(4) その他

①今回の調査方法について

委員会構成が変わり第1回目の委員会となった。

福祉部、保健生活部、教育委員会からそれぞれ主査職以上の職員の紹介と第7次別海町総合計画の中から、今年度の事業実施計画内容の調査を行なった。

また、町立別海病院については、職員の異動がなかったこともあり、今回は未実施とした。

②ふるさと応援基金について

へき地保育園給食提供事業（370万円）や、小中学校情報機器活用支援体制事業（1,440万円）などにふるさと応援基金を充当しており、今年度、全体で約30億円となっている。

ふるさと応援基金を充当している事業は、今後の財源確保について注視していく必要がある。

③視察研修について

病院関係、子育て支援関係、小中一貫校関係など、今後の調査に活かせる研修を早めに計画したい。(次回の検討事項)